小型運搬車
ＢＰ３０ガス仕様

取扱説明書

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3583 5104 000

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

※本書では説明のためにＢＰ３０ガソリンエンジン仕様のイラストレーションを使用している箇所があります。ご理解のうえご了承お願いいたします。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

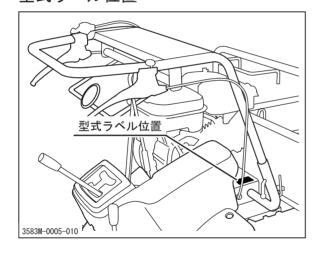
保証とアフターサービスについて

保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞12ページ）

型式ラベル位置

型式ラベル

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　次

５．保守・お手入れ 25

６．不具合発生時の処置 41

７．本製品の移送 44

保証書

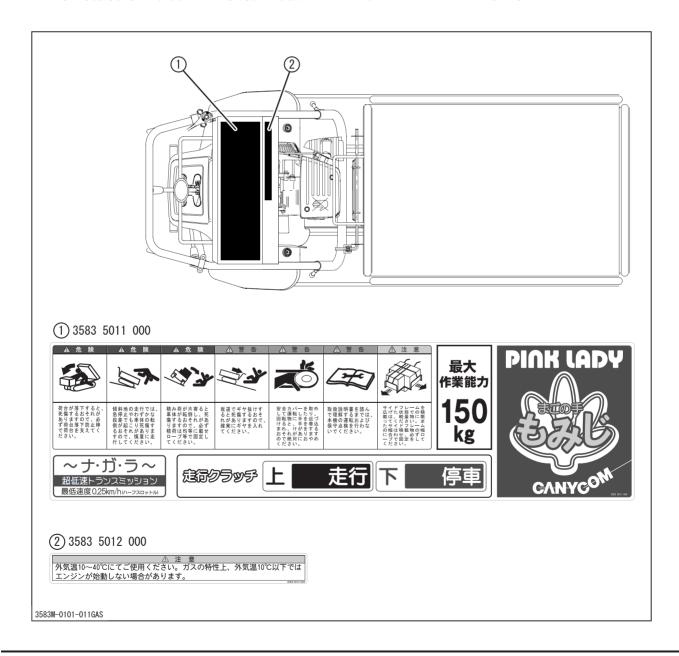
本書の巻末に添付
※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

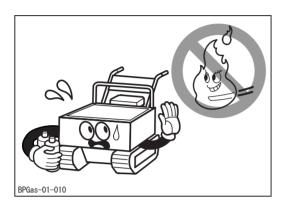
- 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

- 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
  また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

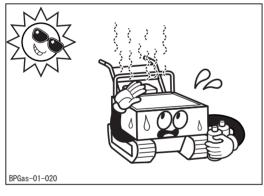
- 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

安全運転・作業のための心得

運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転・安全作業を心がけてください。

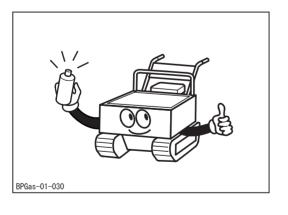
燃料ボンベの取扱い

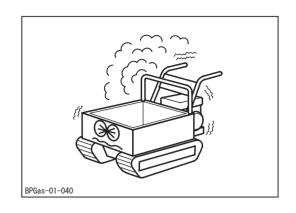
BPGas-01-010

火気厳禁

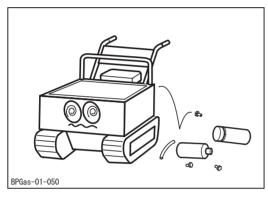
燃料ボンベの取扱時は、火気を近づけないでください。また、燃料ボンベの取り付け・取り外し時は必ずエンジンを停止し、火気のない換気のよい場所で行ってください。燃料ボンベを交換したときはエンジンを始動する前にガス漏れがないか確認してください。

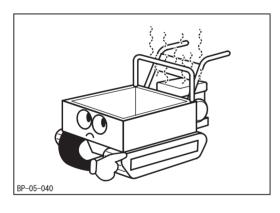
BPGas-01-020

炎天下注意

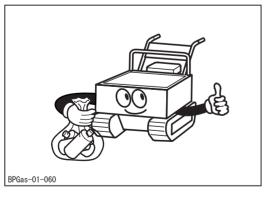
炎天下では、燃料ボンベを車両に取り付けたまま放置しないでください。また、取り外した燃料ボンベも車内や炎天下など40℃以上の場所に置かないでください。燃料ボンベが破裂し火災や傷害事故になる可能性があります。詳しくは燃料ボンベに記載してある注意事項をお読みください。

BPGas-01-030

使用後は燃料ボンベ取り外し

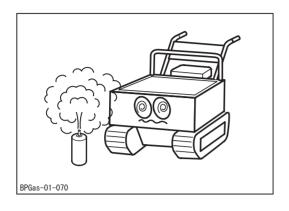
車両の運搬時、保管時、作業終了後は必ず燃料ボンベを取り外してください。また、燃料パイプ内の残留ガスも抜いてください。

異臭、異音、異常振動に注意

使用中に異常な臭気、音、振動が生じたら、直ちにエンジンを停止し、燃料ボンベを取り外してください。お買い上げ店に点検を依頼してください。

燃料系の分解禁止

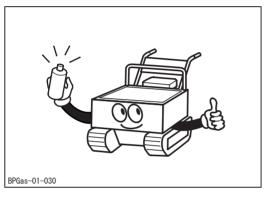
燃料パイプ、コック、ボンベケース、レギュレータ等エンジンの燃料系部品は分解しないでください。エンジン不調時やガス漏れ、燃料パイプ破損等が発生した場合はお買い上げ店に点検を依頼してください。

やけどに注意

使用中や使用直後は燃料ボンベやその周辺部が高温になっており、やけどのおそれがあります。各部が冷えるまで触ったり燃料ボンベの交換を行ったりしないでください。

燃料ボンベ廃棄時の注意

燃料ボンベ内のガスは完全に使い切ってから、各市町村の処理方法に従い適切に廃棄してください。

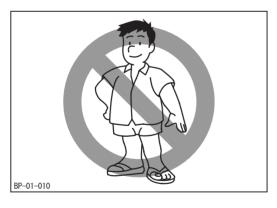
BPGas-01-070

ガスの吸入に注意

ガスを吸い込んだり、目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

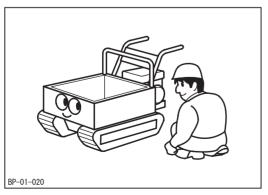
BPGas-01-030

指定燃料ボンベの使用

必ず岩谷産業製燃料ボンベ「イワタニカセットガス」をご使用ください。それ以外の燃料ボンベを使用するとエンジン故障やガス漏れによる火災を起こす可能性があります。

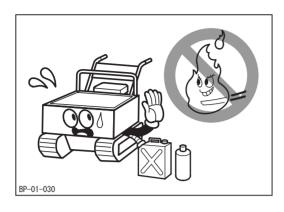
運転前の心得

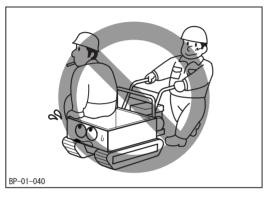
BP-01-010

正しい服装と保護具の着用

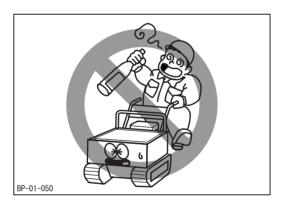
運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。

BP-01-020

始業点検の励行

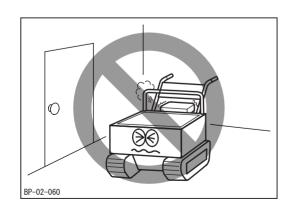
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

BP-01-030

火気厳禁
燃料ボンベ・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。
また、燃料ボンベの取り付け・取り外し時は必ずエンジンを停止し、エンジンが充分冷えるまで待って火気のない換気のよい場所で行ってください。

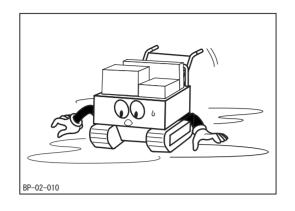
BP-01-040

乗車禁止
本製品は乗車できません。また、人を乗せての運転も行わないでください。

BP-01-050

無謀運転禁止
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

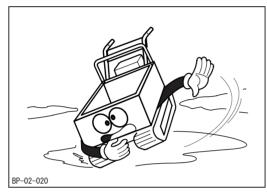
運転時の心得

BP-02-060

換気の悪い場所での始動・運転禁止
エンジンの始動・運転は必ず換気のよい場所で行なってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

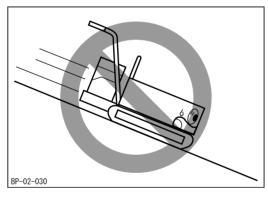
1　安全に関する注意事項

BP-02-010

安全速度遵守

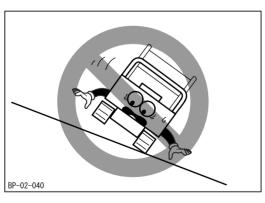
発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。

BP-02-020

急発進・急加速・急旋回・急停止の禁止

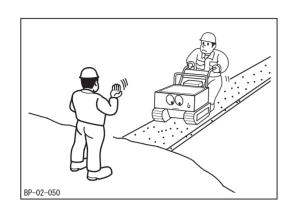
急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

BP-02-030

傾斜地での注意

傾斜地では副変速を「低速」にし、低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

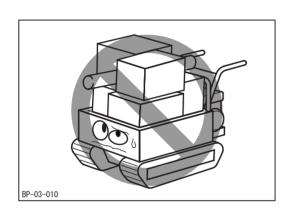
BP-02-040

斜面の横断、旋回禁止

斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
また、斜面では旋回しないでください。車両が逆旋回したり、スリップや転倒をしたりするおそれがあります。

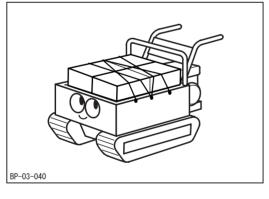
BP-02-050

危険な場所では誘導者の指示に従う

見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

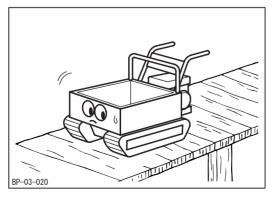
積載時の心得

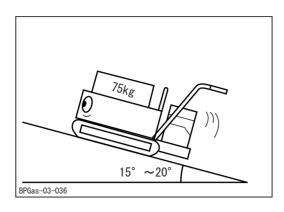
BP-03-010

過積載禁止

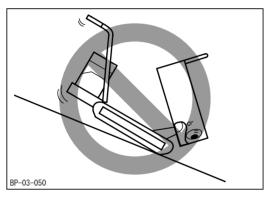
本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。

BP-03-040

積荷は正しく載せる

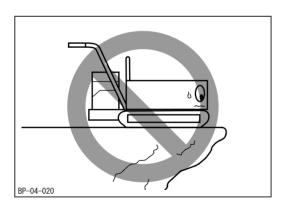
積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープ等で固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するようにしてください。

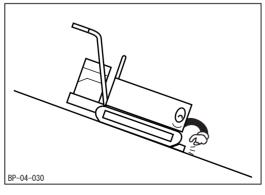
BP-03-020

制限重量に注意

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

傾斜地での積載量に注意

15° ～20° の傾斜地では、積載量を75kg以下にして走行してください。20° ～25° の傾斜地では、空車で走行してください。25° を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。

傾斜地でのダンプ操作禁止

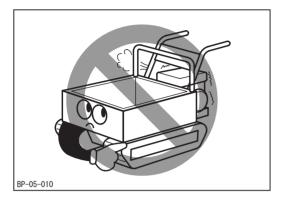
傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。車両が転倒するおそれがあります。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。

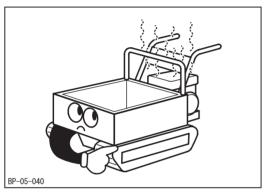
駐車時の心得

危険な場所での駐停車禁止

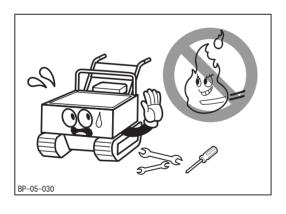
駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。

傾斜地での輪止め励行

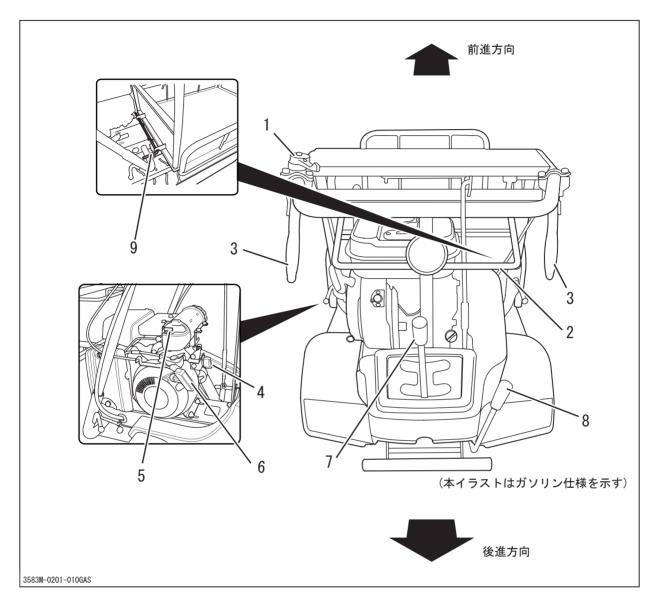
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。

整備時の心得

BP-05-010

点検・整備時エンジン停止
点検および作業時は必ずエンジンを停止してください。

BP-05-040

やけどに注意
エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

BP-05-030

火気厳禁
エンジンの整備時やバッテリの充電時は、火気を近づけないでください。

各部の名称とはたらき

1 **アクセルレバー** ・・・・・・・・・・・・エンジン回転数の増減を行います。

2 **走行クラッチレバー** ・・・・・・・・エンジンからの動力を断続するときに使用します。

3 **サイドクラッチレバー** ・・・・・・車両を旋回するときに使用します。

4 **メインスイッチ** ・・・・・・・・・・・・エンジンを始動または停止するときに使用します。

5 **燃料コック** ・・・・・・・・・・・・・・・・・エンジンを始動するときに使用します。ガスの開閉を行います。

6 **スタータノブ** ・・・・・・・・・・・・・・エンジンを始動するときに使用します。

7　**変速レバー** ・・・・・・・・・・・・・・・・・車両の前後進、走行速度を切り替えるときに使用します。

8　**副変速レバー** ・・・・・・・・・・・・・・・車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

9　**荷台固定棒** ・・・・・・・・・・・・・・・・・荷台を固定します。ダンプ時はこの棒を外して荷台を上げます。また、荷台の下で作業を行うときは荷台落下防止棒として使用します。

3　製品仕様

本製品の仕様

⚠ 注　意
・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名　称　・　型　式				BP30
				サイドフレーム
機械質量			kg	120
最大作業能力			kN(kg)	1.47(150)
機械寸法	全長		mm	1440
	全幅		mm	600
	全高		mm	840
	クローラ接地長		mm	650
	クローラ中心距離		mm	410
	最低地上高		mm	50
	床面高さ		mm	315
荷箱	荷箱内側寸法	長さ	mm	740 〈890〉
		幅	mm	520 〈740〉
		高さ	mm	150
	ダンプ方式			手動ダンプ
	ダンプ角度		度	60
エンジン	名称			三菱　GM82PNガスカセット
	形式			空冷4サイクル傾斜形横軸OHV式LPG
	シリンダ(内径×行程)		mm	52×38
	総排気量		cm^3(cc)	80.7(80.7)
	最大出力		kw(PS)/rpm	1.25(1.7)/3000
	最大トルク		N·m(kgf·m)/rpm	3.92(0.4)/3000
	始動方式			リコイルスタータ式
	使用燃料			LPG
	燃料タンク容量			カセットボンベ1本(内容量250g)
	定格連続運転時間			カセットボンベ1本で約30分
	使用温度		℃	10～40
	潤滑油容量		ℓ	0.4
	点火方式			電子点火
	点火プラグ品番			NGK BPR6HS

製品仕様

名称・型式				BP30
				サイドフレーム
走行性能	走行速度	前進1速	km/h	0.5
		前進2速	km/h	0.8
		前進3速	km/h	1.3
		前進4速	km/h	1.8
		前進5速	km/h	3.0
		前進6速	km/h	4.9
		後進1速	km/h	0.6
		後進2速	km/h	2.3
	最小回転半径		m	1.0
	登坂能力		度	25(空車)
動力伝達装置	クラッチ形式			ベルトテンション式
	主変速形式			ギヤスライド
	副変速形式			ギヤスライド
	操向装置形式			ドグクラッチ・爪ロック式
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ
	トランスミッション油量		ℓ	1.5

〈　〉内はサイドフレーム延長時

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	プレート	1	
3	エンジン工具	1	

運転前の準備

始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞25ページ）を参照してください。

燃料ボンベの点検と交換

⚠ 危　険

・燃料ボンベの取扱い時は火気を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。

⚠ 警　告

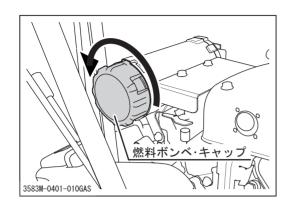
・燃料ボンベの取扱い時は必ずエンジンを停止してください。

・外観上、錆や凹みのある燃料ボンベは使用しないでください。火災や爆発のおそれがあります。

・燃料ボンベの取り付け時は、ボンベの口金に土等の異物が付着していないことを確認してください。異物が付着している場合はきれいに清掃してから取り付けてください。ガス漏れのおそれがあります。

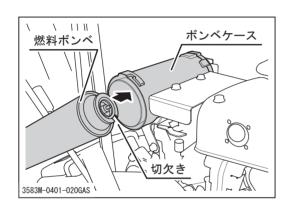
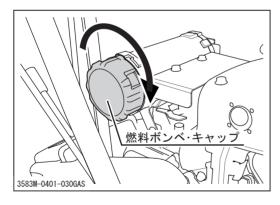
・エンジン停止直後は燃料ボンベやその周辺部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・エンジン停止時は燃料コックを[止]にしてください。ガスが漏れるおそれがあります。

・燃料ボンベのガスは完全に使い切り、使用済みボンベは法令に従って適切な処理をしてください。

1. 燃料コックが[止]であることを確認します。[止]でない場合は[止]に回します。
2. 燃料ボンベ・キャップを押し込みながら左に回し、燃料ボンベを抜き出します。
3. 燃料ボンベを振り、残量が少ない場合は新品のボンベを準備します。

アドバイス

・**指定ボンベ：岩谷産業製「イワタニカセットガス」（内容量250gタイプ）**

4. ボンベ口金の切欠きが下を向いていることを確認して、燃料ボンベをボンベケースに確実に挿入します。

5. 燃料ボンベ・キャップをはめて押し込み、右に回し確実に固定します。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警　告

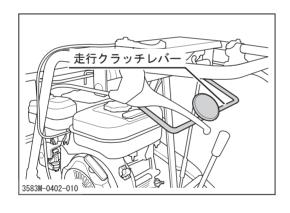
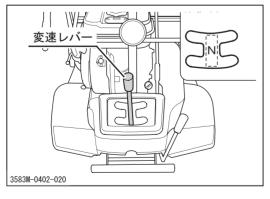
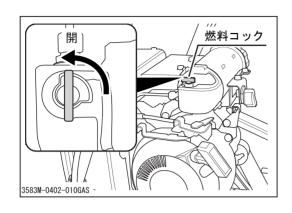
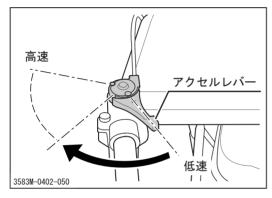
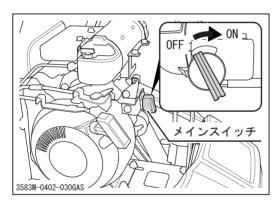
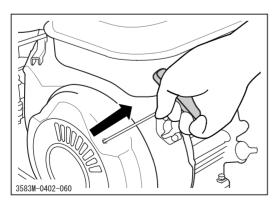
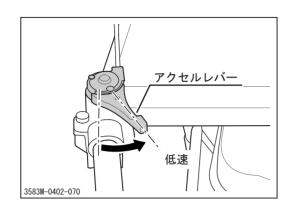
・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

・エンジンの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

⚠ 注　意

・本機は燃料であるブタンガスの性質上外気温が10℃以下の環境では使用できません。

・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。

1. 走行クラッチレバーが[停車]にあることを確認します。

2. 変速レバーが[N（ニュートラル）]にあることを確認します。

3. 燃料コックを[開]にします。

4. アクセルレバーを[高速]側に少し動かします。

5. メインスイッチを[ON]にします。

6. スタータノブを勢いよく引き、エンジンを始動します。

7. エンジン始動後、アクセルレバーを[低速]にします。
8. 1～2分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

・購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。

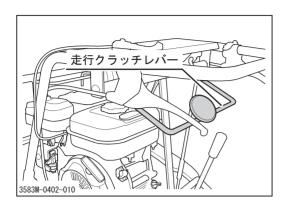
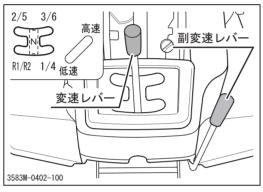
・急発進・急加速・急旋回を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・傾斜地では副変速を「低速」にし、低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

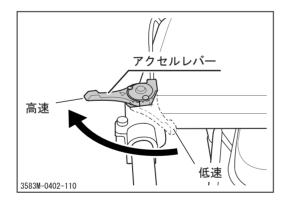
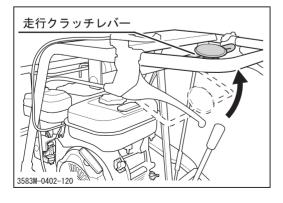
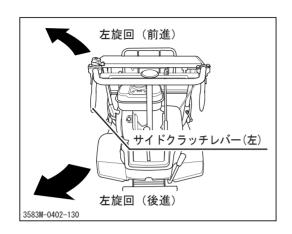
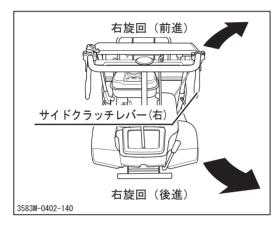
・斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。

・斜面で旋回しないでください。車両が逆旋回したり、スリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

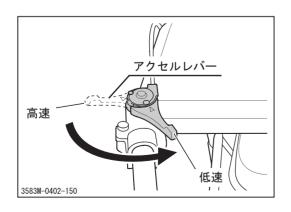
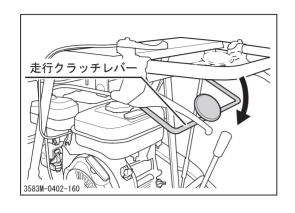
・走行中にメインスイッチを「OFF」にしないでください。

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 走行クラッチレバーが[停車]にあることを確認します。

3. 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

アドバイス

・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞13ページ）を参照してください。
・変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。

4. アクセルレバーを[高速]側に動かし、エンジンの回転数を上げます。

5. 走行クラッチレバーを[走行]にし、車両を発進します。

6. 左旋回したい場合は左側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

7. 右旋回したい場合は右側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

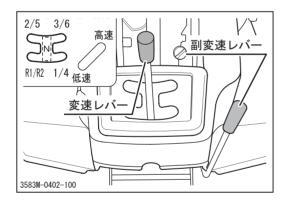
停止のしかた

⚠ 警 告

- 急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
- 停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。

1. アクセルレバーを[低速]側に動かし、車両を減速します。

2. 走行クラッチレバーを[停車]にし、車両を停止します。

変速のしかた

⚠ 警　告

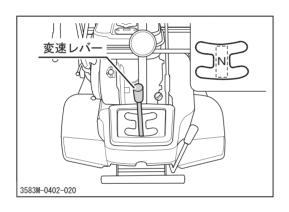
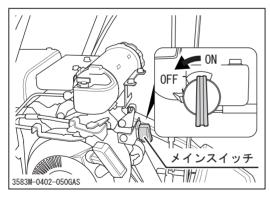
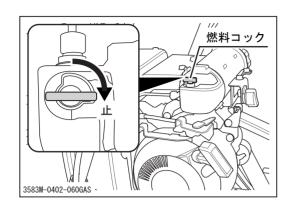
- 変速操作は必ず車両を停止してから行ってください。
- 変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。

1. 車両を確実に停止します。
2. 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

アドバイス

- 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞13ページ）を参照してください。
- 変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。

駐車のしかた

⚠ 警　告

- 駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。
- 傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。
- 作業終了後、運搬、保管時は必ず燃料コックを[止]にしてエンジンを始動し、エンジンが止まるまで運転して燃料パイプ内の残留ガスを抜いてください。ガス抜き後、燃料ボンベを取り外してください。

1. 車両を確実に停止します。
2. アクセルレバーを[低速]にし、エンジン回転数を下げます。
3. 変速レバーを[N（ニュートラル）]にします。

4. メインスイッチを[OFF]にし、エンジンを停止します。

5. 燃料コックを[止]にします。
6. 保管や運搬などで車両を引き続き使用しない場合は燃料コックが[止]の状態でエンジンを始動し、燃料パイプ内の残留ガスが抜けるまでエンジンを運転します。

アドバイス
・エンジン回転数が低回転の状態で長時間使用すると、点火プラグにカーボンがたまりやすくなります。低回転で長時間使用した場合には、エンジン停止前に高回転で連続運転をし、カーボンを除去してください。

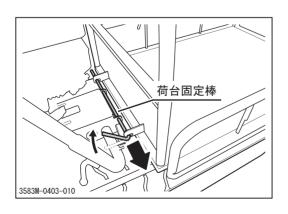
作業のしかた

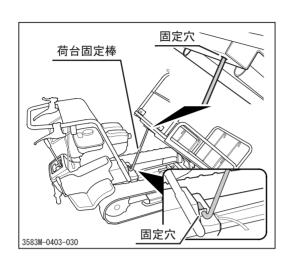
荷台固定棒の操作

⚠ 警　告

・点検等で荷台を上昇した場合には、必ず荷台固定棒で荷台を確実に支えてください。

⚠ 注　意

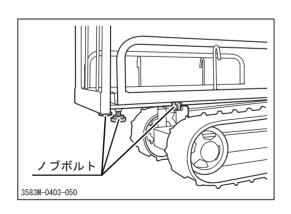
・荷台を下降する前に、必ず荷台固定棒を元に戻してください。

1. 荷台固定棒を引き抜き荷台を上昇します。

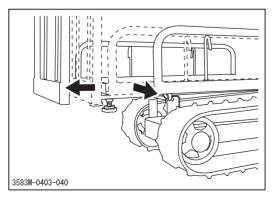
3583M-0403-030

2. 荷台固定棒の短い方を取付版に差込み、荷台荷台裏面の固定穴に差し込んで荷台落下防止棒として使用します。

スライド枠の操作

⚠ 注　意

- スライド枠は必ず固定して使用してください。
- スライド枠はラインより引き出して使用しないでください。スライド枠が破損するおそれがあります。

3583M-0403-050

1. ノブボルトを緩め固定を解除します。

3583M-0403-040

2. スライド枠を任意の位置に調整します。
3. ノブボルトを締めスライド枠を固定します。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

エンジンの点検

日常点検

・エンジンオイルの量と汚れ
・エアクリーナエレメントの汚れ
・燃料、オイル等の漏れ
・各部ボルト緩み、破損
・異常振動、異常音

定期点検

項目	作業頻度
各部の清掃及び締付点検	8時間毎(毎日)
エンジンオイル点検・補給	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
エンジンオイル交換	初回25時間目、２回目以降50時間毎
油漏れの点検	8時間毎(毎日)
エアクリーナの点検・清掃	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
リコイルスタータ周辺の清掃	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
マフラーカバー周辺の清掃	8時間毎(毎日)（ほこりの多い場所ではもっと頻繁に行ってください）
点火プラグの点検・清掃	50時間毎
燃焼室カーボン除去	100時間毎（販売店に依頼してください）
バルブ隙間の点検・調整	100時間毎（販売店に依頼してください）
燃料ホース交換	3年毎（但し、必要に応じ交換してください）

車両の点検

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

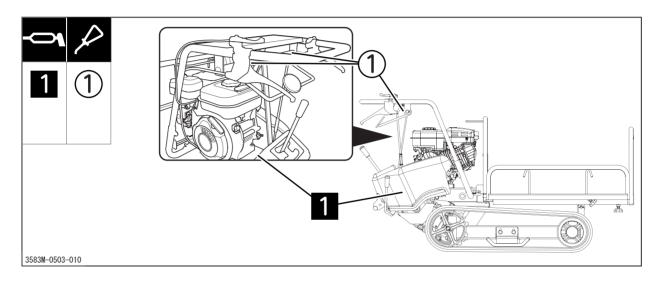
項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
走行装置	クローラ	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	点検/調整：☞34ページ
		張りボルトに変形、腐食がないこと	○	○	○	
	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	Vベルト	Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○	点検：☞36ページ
		ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞36ページ
	走行クラッチ	アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること		○	○	
		クラッチを接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること		○	○	
	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	点検/調整：☞37ページ
		ブレーキ作動時に25度勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	サイドクラッチ	操作時に異音がなく確実に作動すること	○	○	○	
		レバーの遊びおよび引きしろが適正であること	○	○	○	点検/調整：☞38ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	
	遊動輪スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部周辺より油漏れがないこと		○	○	
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
車体・安全装置等	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂、変形がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台および荷扉	荷台の上下が円滑におこなえること		○	○	
		ドアの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台固定棒	荷台固定棒に変形がないこと		○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	

給油一覧表

項目	補給（交換）時期	推奨品	容量
燃料	随時	岩谷産業製「イワタニカセットガス」内容量250gタイプ	250g
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：25時間 2回目以降：50時間毎	エンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	0.4ℓ
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	1.5ℓ

給脂・注油一覧表

項　目	補給（交換）時期	推　奨　品	容量
給脂箇所	半年毎	シャーシグリース	-
注油箇所	半年毎	ギヤオイル API分類 GL4 または 5 SAE分類 #80	-

アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒で十分です。

消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

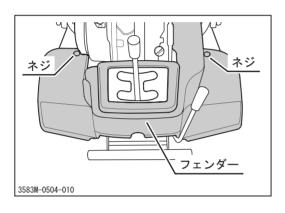
・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

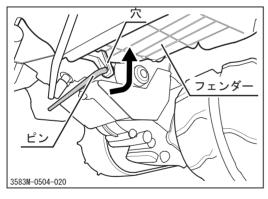
項　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
エアクリーナエレメント	277-32611-07	不具合があれば交換	1
点火プラグ（NGK BPR-6HS）	065-01407-40	不具合があれば交換	1
走行装置			
Vベルト（SA30）	08511300030	不具合があれば交換	1
クローラ	35832022000	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット	73069901000	不具合があれば交換	1

カバーの取り外しかた・取り付けかた

⚠ 注　意

- カバーの取り外し・取り付け時に手や指をはさまないように十分注意してください。
- 点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後必ず元に戻してください。

フェンダー

取り外し

1. ネジ（2本）を取り外し、フェンダーを取り外します。

2. フェンダーを前方にずらしフレーム側のピンを外して上に持ち上げます。

取り付け

1. カバーの穴に車体側のピンを通し、カバーを取り付けます。
2. ネジを取り付けます。

エンジン

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はエンジンオイルおよびエンジン各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

エンジンオイルの点検・補給・交換

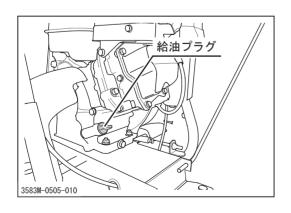
⚠ 警　告

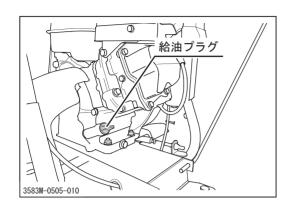
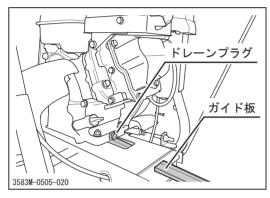
・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・指定オイル：☞27ページ
・オイル量：☞27ページ

点検

1. 車体を水平な場所に駐車します。
2. 給油プラグを取り外します。
3. オイルの点検を行います。
4. 給油プラグを取り付けます。

補給

1. 車体を水平な場所に駐車します。
2. 給油プラグを取り外します。
3. オイルの補給を行います。
4. オイル量を点検します。
5. 給油プラグを取り付けます。

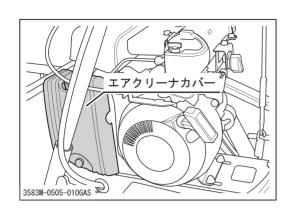
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. 荷箱固定棒を外し荷箱を上げ、荷台固定棒を落下防止棒として確実に荷箱を固定します。
3. フレーム前の角穴にガイド版を奥まで挿入します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. オイルを補給します。
7. ガイド板を取り外します。
8. 荷台固定棒を外し荷箱を下降します。
9. 荷箱を荷台固定棒で固定します。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

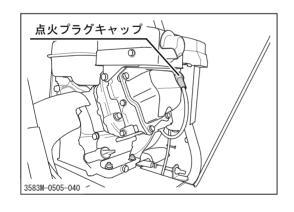
・エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。

・エレメントに穴が開いている場合は、すぐに新品と交換してください。

1. エアクリーナカバーを取り外し、エアクリーナーエレメント確認します。エレメントが破損している場合は交換します。
2. エレメントを白灯油で洗浄します。
3. エレメントにエンジンオイルを浸し、固く絞ってから取り付けます。
4. エアクリーナカバーを取り付けます。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注　意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。

・点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。

1. 荷台を上昇し、荷台固定棒で確実に固定します。
2. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り外します。
3. 点火プラグに破損や磨耗がないか確認します。破損や磨耗がある場合は交換します。
4. 電極に付着したカーボンを取り除き、電極スキマを調整します。
5. 点火プラグキャップ、点火プラグを取り付け、荷台を下降します。

アドバイス

・電極スキマ：0.7㎜。

走行装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

クローラの点検・調整

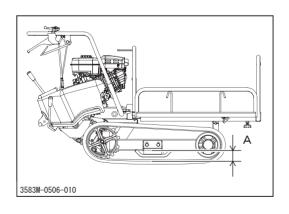
⚠ 警　告

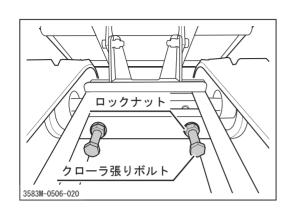
・作業時はジャッキが外れないように確実に固定してください

⚠ 注　意

・クローラは必ず適正な張りで使用してください。脱輪したり、クローラの寿命が短くなったりするおそれがあります。

アドバイス

・クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが発生しますので、定期的に点検・調整を行ってください。

点検

1. 車両をジャッキアップし、地面と平行になるように浮かせます。
2. クローラとフレームの隙間Ａが50～55㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。
3. 車両を降ろします。

調整

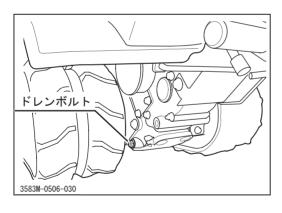
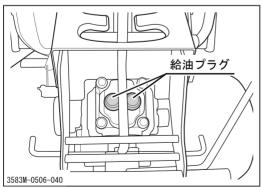
1. 車両をジャッキアップし、地面と平行になるように浮かせます。
2. ロックナットを緩めます
3. クローラとフレームの隙間Ａが50～55㎜になるようにクローラ張りボルトで調整します。
4. ロックナットを確実に締め付けます。
5. 車両を降ろします。

トランスミッションオイルの交換

⚠ 警　告

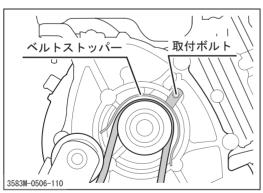
・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

アドバイス

・指定オイル：☞27ページ
・オイル量：☞27ページ

1. 車体を水平な場所に停止します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。

5. フェンダーを取り外します。
6. 給油プラグを取り外します。
7. じょうご等を使用し、給油口より指定のオイルを補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. フェンダーを取り付けます。

Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトがすべる場合にはベルトの張りを調整してください。ベルトの寿命が短くなるおそれがあります。

点検

1.　フェンダーを取り外します。
2.　Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
3.　フェンダーを取り付けます。

調整

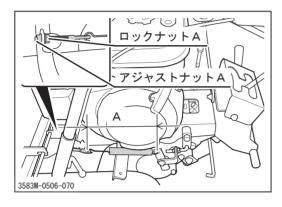
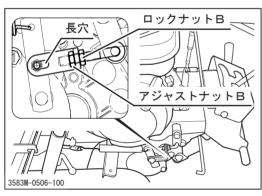
1.　走行クラッチレバーを「停車」にします。
2.　ロックナットを緩めます。
3.　ベルトがすべる場合は、走行クラッチレバーが「走行」位置にてターンバックルを調整し、スプリングが3～4mm伸びるように調整します。
4.　走行クラッチの切れが悪い場合は、ベルトストッパーを調整します。ベルトストッパーは取付ボルトを緩め、走行クラッチレバーが「走行」位置にある場合はベルトに接触しないように、「停車」位置にある場合はつき回りしないように調整し、取付ボルトを締め付けます。
5.　ロックナットを締め付けます。

アドバイス

・Ｖベルトの張り調整をした場合は必ずブレーキの調整も行って下さい。

ブレーキの点検・調整

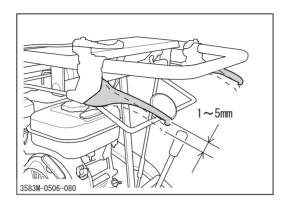
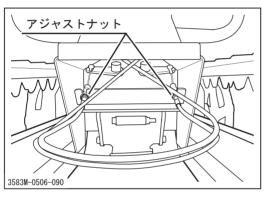
⚠ 警　告

・ブレーキの効きが少しでも甘くなったらすぐに調整を行ってください。

点検

1. フェンダーを取り外します。
2. 走行クラッチレバーを「停車」の位置に入れます。
3. スプリングの長さＡが170～174㎜であるか点検します。適正でない場合には調整します。
4. 荷台を下降します。

調整

1. フェンダーを取り外します。
2. ロックナットＡを緩めます。
3. 走行クラッチレバーを「停車」位置にします。
4. スプリングの長さＡが170～174㎜になるようにアジャストナットＡで調整します。
5. ロックナットＡを締め付けます。
6. ロックナットＢを緩めます。
7. 走行クラッチレバーを「走行」位置にし、ブレーキが解除状態になるように、また長穴に遊びが出来るようにアジャストナットＢで調整します
8. ロックナットＢを締め付けます。
9. フェンダーを取り付けます。

サイドクラッチの調整

1. 荷台を上昇し、荷台固定棒で確実に固定します。

2. サイドクラッチレバーの遊びが1～5mmになるようにアジャストナットで調整します。
3. 荷台を下降します。

使用後のお手入れ

⚠ 警　告

- 作業終了後、運搬、保管時は必ず燃料コックを[止]にしてエンジンを始動し、エンジンが止まるまで運転して燃料パイプ内の残留ガスを抜いてください。ガス抜き後、燃料ボンベを取り外してください。

⚠ 注　意

- エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従って車両を駐車し、残留ガスを抜いて燃料ボンベを取り外します。
2. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従って車両を駐車し、残留ガスを抜いて燃料ボンベを取り外します。
2. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
4. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

- 火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。
- 作業終了後、運搬、保管時は必ず燃料コックを[止]にしてエンジンを始動し、エンジンが止まるまで運転して燃料パイプ内の残留ガスを抜いてください。ガス抜き後、燃料ボンベを取り外してください。

⚠ 注　意

- エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- 湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従って車両を駐車し、残留ガスを抜いて燃料ボンベを取り外します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 点火プラグを外して、シリンダ内にエンジンオイルを2～3cc。注入し、スタータノブを引いてクランク軸を数回転回した後に点火プラグを取り付け、再度スタータノブを引き、圧縮のあるところで止めます。
4. 車体とエンジンを油のしみた布で清掃します。
5. エンジンが十分冷えていることを確認し、防水カバー等をかけて保管します。

不具合診断表

⚠ 注　意

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	14ページ
		気温が低い（10℃未満）	→暖かくなるまで待つ	
		燃料コックが[止]になっている	→燃料コックを開く	17ページ
		点火プラグの着火不良	→清掃または交換する	33ページ
		ガスが漏れている	→**「燃料ボンベの点検と交換」**の手順に従って燃料ボンベを挿入しなおし、始動不可、あるいはガス臭が続く場合は販売店へお問い合わせください	14ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	16ページ
	すぐにエンストする	暖気不足	→十分暖気する	18ページ
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	14ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	33ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

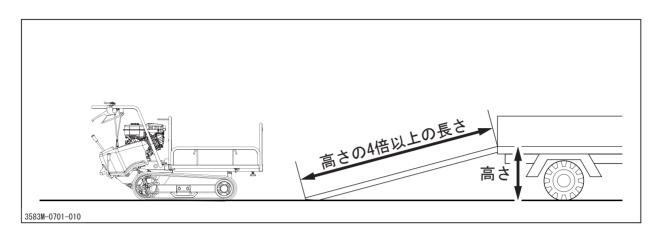
6　　不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	33ページ
		Ｖベルトの緩み	→調整する	36ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	31ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	33ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	33ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	31ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーが引っかかる		→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	クラッチをつないでも車体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		Ｖベルトの緩み	→調整する	36ページ
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	16ページ
	クラッチの切れが悪い	Ｖベルトの調整不良	→調整する	36ページ
	Ｖベルトが滑る	Ｖベルトの緩み	→調整する	36ページ

<table>
<tr><th>発生箇所</th><th>不具合現象</th><th>考えられる原因</th><th>処置</th><th>参照</th></tr>
<tr><td rowspan="6">走行装置関連</td><td rowspan="3">ギヤ抜けする</td><td>ギヤが完全に入っていない</td><td>→ギヤを確実に入れる</td><td></td></tr>
<tr><td>過積載</td><td>→積荷を減らす</td><td></td></tr>
<tr><td>その他（上記以外）</td><td>→販売店へお問い合わせください</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">旋回が円滑に行えない</td><td>サイドクラッチの調整不良</td><td>→調整する</td><td>38ページ</td></tr>
<tr><td>その他（上記以外）</td><td>→販売店へお問い合わせください</td><td></td></tr>
<tr><td>スプロケット、遊動輪より不連続音または異常発熱がある。</td><td></td><td>→販売店へお問い合わせください</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">制動装置関連</td><td rowspan="4">ブレーキの効きが悪い</td><td>ブレーキの調整不良</td><td>→調整する</td><td>37ページ</td></tr>
<tr><td>ブレーキドラム内に水が浸入</td><td>→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす</td><td></td></tr>
<tr><td>過積載</td><td>→積荷を減らす</td><td></td></tr>
<tr><td>その他（上記以外）</td><td>→販売店へお問い合わせください</td><td></td></tr>
</table>

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

- トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- 作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- 前進でゆっくりと積み込んでください。
- アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- 輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。
- 作業終了後、運搬、保管時は必ず燃料コックを[止]にしてエンジンを始動し、エンジンが止まるまで運転して燃料パイプ内の残留ガスを抜いてください。ガス抜き後、燃料ボンベを取り外してください。

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進でゆっくりと積み込みます。
4. **「駐車のしかた」**（☞22ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。